

公益社団法人日本リハビリテーション医学会

平成28年度 第1回理事会 議事録

日時 平成28年4月23日(土) 12時00分～16時00分  
場所 都市センターホテル 701  
構成員 理事20名、監事3名  
出席者 理事長 水間正澄  
副理事長 安保雅博 才藤栄一 出江紳一  
理事 浅見豊子 石川 誠 近藤和泉 佐浦隆一  
久保俊一 上月正博 白倉賢二 菅本一臣  
千田益生 帖佐悦男 椿原彰夫 道免和久  
芳賀信彦 正門由久  
監事 朝貝芳美 木村彰男 田島文博  
欠席者 理事 志波直人 島田洋一  
陪席者 事務局幹事 川手信行  
専門医会幹事長 大串 幹

議 題

I 報 告

(1) 業務執行理事会報告

水間理事長から業務執行に関する報告があった。

(2) 会員現況報告

水間理事長から会員現況の報告があった。

(3) 寄附金の受け入れについて

安保副理事長から、学会誌に挟み込んだ寄附金振込依頼書を使った会員からの28年度4月寄附金受入れ状況について報告があった。

(4) 平成28年度事業計画及び予算書の内閣府への提出について

安保副理事長から3月29日に平成28年度事業計画及び予算書を内閣府に提出した旨報告があった。

(5) その他

①熊本地震への対応について

水間理事長から、熊本地震への対応のためにリハ医学会対策本部を立ち上げた旨の報告があった。また、佐浦理事からJRATの取り組み状況について次のような報告があった。JRATはJMAT、DMATのような公式機関ではないために、国等からの資金の裏付けがないこと、JRATの活動はJMATの傘下に組み入れられた活動となることから、各県JRATの中でチームを組んでもらいたい。

さらに水間理事長から、JRATに財政的な基盤がないため活動に障害がでていることから、加盟団体に負担金と同額の負担を求めたいとの発言

があり、了承された。

②全国医学部リハ科連絡会について

安保副理事長から、全国リハ科実態調査の取りまとめを行っており、6月8日の第1回連絡会で報告する旨の説明があった。

## II 重要審議事項

### (1) 新役員候補者について

#### ①選挙管理委員会報告

芳賀理事から、3月に実施した役員候補者の意向選挙結果について、立候補者数が役員定数を超えなかったために全員の当選を決定した旨報告があった。また、代議員選挙の開票に関して、郵便局における料金後納郵便物の取り扱いの関係で、締め切り日以降に83通の投票用紙が届いたことから、投票方法に関する問題点について選挙制度検討委員会に検討を依頼したい旨の説明があり、審議の結果、承認された。なお、締め切り後に届いた投票数は、代議員の当落に影響していなかった旨の補足があり、了承された。

#### ②新役員候補者の代議員総会への提案について

水間理事長から、選挙管理委員会から報告のあった役員候補者（理事20名、監事3名）を役員候補者として代議員総会に提案する旨の説明があり、審議の結果、案の通り承認された。

#### ③役員候補者の決定通知について（代議員向け）

水間理事長から代議員向けに通知する役員候補者の決定のお知らせ文案について説明があり、審議の結果、案の通り承認された。

### (2) 平成27年度収支決算報告について

安保副理事長から、平成27年度収支決算について次のような説明があった。平成27年度末時点での現金残高は約58,000千円で昨年度同期より約12,000千円の増加となった。正味財産増減では約31,000千円の黒字となったが、公益目的事業会計では約10,600千円の赤字となっており、収支相償を満たしている。引き続き、4月18日に行われた監事監査結果について、監事を代表して浅貝監事から報告があった。監事監査に関連して、木村監事から次のような発言があった。今回の監事監査にあたって、平成27年度から就任した小見山会計顧問による「独立監査人の監査報告書」が出されており、報告書の最後にリハ医学会と小見山顧問との間に利害関係はないと記載されているが、事務局職員の退職に伴う補充が小見山会計事務所から行われているようであり、利害関係は存在しているの見直しが必要である。

これに対して水間理事長から、監事の指摘の通りであると考えてるので、平成28年度以降の対応について検討する旨の回答があった。

審議の結果、平成27年度収支決算報告は案の通り承認され、代議員総

会に附議することとした。

(3) 平成27年度事業報告及び各種委員会報告について

才藤副理事長から平成27年度事業報告案及び各種委員会報告案について説明があり、修正があれば4月28日までに事務局長に連絡することとし、修正案を代議員総会に付議することとした。

(4) 新専門医制度について

芳賀理事から新専門医制度に関する現時点での検討状況等についてそれぞれ説明があり、審議が行われた。

①内閣府との面談について

日本専門医機構から内閣府に対して行われた公益法人における機構専門医の取り扱いに関する協議の結果について、当面は公益法人の事業変更届を行い、機構から法人への業務委託については現状の体制の下で可能であることが確認された。

②レジナビフェアについて

昨年度参加したレジナビフェアは本年度から有料となり、東京、大阪それぞれ150千円、合計300千円の負担となるが、研修医への優位な宣伝となるために参加することには意義があり、参加したい。これに対して審議の結果、参加することとし、若手の専門医に呼び掛け各地4名体制で対応することとした。

③専門研修プログラムの審査について

専門研修プログラムの申請を受け付け、第1次審査を行い4月11日に機構のシステムに登録をしたが、厚労省から地域偏在をなくすようにとの要請があり、二次医療圏における研修施設の状況等について調整を行っている。その結果、研修施設から要望などが出されており、今回対応できるところは研修プログラムへの参加も含めて調整を行い、最終的に各県最低1～2とし、大都市を5に抑えるなどの方法で180名程度を専攻医募集定員としたい。これに対して、マッチング機能が働かないとうまくいかないのではないかと、募集定員に空きがある地域の定員を他の地域で利用できないかなどの意見が出され、今後検討していくこととした。

④第11回専門医会学術集会における規定講習会及び指導医講習会の講師案について

第11回専門医会学術集会で開催する規定講習会「医療倫理、医療安全、感染対策」及び指導医講習会の講師案について審議を行った結果、案の通り承認され、機構の審査に上げることにした。

⑤専門医試験実施時期について

今後の専門医試験の時期については7月に実施することで理事会の承認を得ているが、2016年4月に研修を開始し2019年3月に研修を修了した者の試験を2020年7月に合わせるかどうかについて審議した結果、

2019年3月修了者は2019年度試験を実施し、2020年3月修了者から7月実施とすることを確認し、早急に周知することとした。

### Ⅲ 審議事項

#### (1) 代議員総会関係

##### ①代議員総会、会員への報告会日程の確認について

才藤副理事長から代議員総会当日の日程および会員への報告会の日程について確認が行われた。

##### ②代議員総会、会員への報告会議事次第案について

才藤副理事長から代議員総会及び会員への報告会議事次第案について説明があり、案の通り承認された。

##### ③代議員総会開催通知について

才藤副理事長から代議員、名誉会員及び功労会員向けの開催通知案について説明があり、案の通り承認された。

##### ④代議員総会における議決方法について

才藤副理事長から、代議員総会における議決方法について、代議員総会では書面評決を行わないこと、議決は拍手による採決とすることを確認した。なお、今回は役員への信任が行われるが、役員候補者を一名ずつ読み上げ拍手による採決を行うこととするが、書面投票の準備も行っておくこととした。

##### ⑤代議員総会議長・副議長について

才藤副理事長から、指名発声人を池田巧先生、議長を三上靖夫先生、副議長を平岡崇先生としたい旨提案があり、案の通り承認された。

#### (2) 第3回秋季学術集会会長候補について

水間理事長から、第3回(2019年度)秋季学術集会会長候補として、正門由久先生が推薦された旨説明があり、審議の結果、案の通り承認され代議員総会に附議することとした。

#### (3) 第55回春季学術集会幹事の委嘱について

水間理事長から、第55回春季学術集会幹事として浅見会長から南里悠介先生及び山之内直也先生の推薦があった旨説明があり、審議の結果、案の通り承認された。ただし、理事会への出席旅費は1名分のみ医学会から負担することを確認した。

#### (4) 第1回秋季学術集会幹事の委嘱について

水間理事長から、第1回秋季学術集会幹事として菅本会長から富田哲也先生の推薦があった旨説明があり、審議の結果、案の通り承認された。なお、富田幹事は、平成28年11月の理事会から陪席をお願いすることが確認された。

#### (5) 第2回秋季学術集会の日程について

上月理事（第2回秋季学術集会会長）から、第2回秋季学術集会の会場に予定していた東北大学が工事に入ることが判明したことから、平成30年11月2日（金）～4日（日）に仙台国際センター会議棟及び展示棟を会場として変更開催することについて説明があり、承認された。

（6）第53回学術集会について

久保理事（第53回学術集会会長）から、新規にNPO法人筋痛性脳脊髄炎の会からの出展要請があり、この対応について次のような協議があった。患者の会からの出展許可は学術集会会長の裁量に委ねられているが、患者の会が学会の議論の中に加わることの可否について理事会で判断してもらう必要がある。他学会でも患者の会が学術集会に参加することを認めている学会は少ないと思われる。またこれまでの経緯から無償出展となっている。これに対して審議の結果、患者の会が学術集会に参加することに関して基本領域学会の足並みが揃ってはいないが、リハ医学会としては出展に関して実費を徴収すること、患者の会は展示会場のみでの立ち入りを許可するが、学術集会会場への立ち入りは許可しないこととした。そのうえで、今回申請のあった患者の会の出展は見合わせてもらうこととした。

また、熊本地震の影響で演題発表の取り下げが生じているが、この取扱いをどのようにするか協議があり、審議の結果、抄録発表があれば単位として認めることを前提として、資格認定委員会で協議することとした。

さらに、毎年学術集会と同時開催している脳性麻痺研究会については、学術集会から独立して開催してもらうか、合同プログラムとするか、次回学術集会までに整理してもらうこととした。

（7）各種委員会委員の委嘱変更について（試験委員会）

水間理事長から、試験委員として委嘱予定していた先生から辞退があったため委員会を指定しないリストから小林康孝先生に打診をしたところ、小林先生からも辞退され、同じリストから青木重陽先生に委嘱変更したい旨提案があり、承認された。なお、小林康孝先生は委員会を指定しないリストに掲載されているが、委員の就任を辞退したことからリストから除外することとした。

（8）日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員の交代について

水間理事長から、日本癌治療学会がん診療ガイドライン統括・連絡委員会リハビリテーション担当委員の交代について、次の通り交代する旨連絡し、承認された旨説明があった。なお、この交代について理事会審議に間に合わなかったため事後承認を得ることについて承認された。

専門委員 辻哲也先生

協力委員 宮村紘平先生、竹川徹先生、加賀谷斉先生

評価委員 近藤和泉先生

（9）平成28年度海外研修助成候補者について

佐浦理事から平成28年度海外研修助成候補者について説明があり、審

議の結果、林哲夫先生、尾崎健一先生、南里悠介先生に助成することを決定した。なお、助成額は林先生、尾崎先生には各30万円、南里先生は20万円とした。また、これにより予算に余裕が生じたため、追加募集を検討することとした。

(10) 平成28年度外国人リハ医交流助成候補者について

佐浦理事から平成28年度外国人リハ医交流助成者について説明があり、審議の結果、**Huang Shu-Chun (Taiwan)**に20万円の助成を決定した。ただし、助成は、応募者の研修スケジュールが未定であるため、スケジュールが確定したのち助成することとした。

(11) 新専門医制度に向けた会員システムの改修について

近藤理事から新専門医制度における教育講演の単位登録のシステム改修案について説明があり、案の通り進めることが承認された。

(12) がんのリハビリテーションガイドライン改訂について

近藤理事から、慶応義塾大学の辻哲也先生が **AMED** の研究費を獲得したことから、この経費を活用してがんのリハビリテーションガイドライン改訂に向けた検討を開始したい旨説明があり、承認された。なお、外部委員を含めて7月までにガイドライン策定委員のメンバーを理事会に提案することとした。関連して、近藤理事から脳卒中ガイドラインの中間改訂を行う旨の説明があったが、**Minds** において中間改訂が良いのかどうか確認する必要があるとの意見が出された。

(13) 医師以外の正会員の入会について

上月理事から医師以外の正会員の入会について説明があり、審議の結果、高橋ヒロ子先生の入会が承認された。

(14) 会員の入退会について

才藤副理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、案のとおり承認された。

(15) 賛助会員の退会について

才藤副理事長から賛助会員の京西テクノス㈱から退会届が出された旨説明があり、了承された。なお、賛助会員については、メリットを明確にして要請していく必要があることが確認された。

(16) 社会保険等委員会関係

石川理事から、全国リハ医療関連団体協議会報酬対策部会での平成28年度診療報酬改定の評価について、リハ関連ではほぼ納得できる内容であったとする内容が報告された。また、回復期リハ病棟専従医師研修会については単位が認められそうであることなどの説明があり了承された。なお、石川理事の退任に伴い石川先生に社会保険等委員会のアドバイザー就任をお願いしたいとの委員会決定があったため、承認をいただきたい旨の説明があり、了承された。

(17) 施設認定委員会関係

①研修施設の新規認定について

椿原理事から研修施設の新規認定について説明があり、審議の結果、案のとおり承認された。なお、現時点で保留とされた2施設は、保留が解除された段階で改めて理事会に提案することとした。

②研修施設の資格喪失について

椿原理事から研修施設の資格喪失について説明があり、審議の結果、案のとおり承認された。

③研修施設の保留解除について

浅見理事から研修施設の保留解除について説明があり、審議の結果、案のとおり承認された。

(18) 1-f 新規関連学会の申請について

正門理事から日本ボツリヌス治療学会からの新規関連学会申請について説明があり、審議の結果、案の通り承認された。

(20) 2-c 関連研修会の申請について

正門理事から社会保険等委員会企画リハ医学会主催の3件の研修会に関する教育単位の申請について説明があり、審議の結果、案のとおり承認された。

(21) その他

①後援・協賛について

才藤副理事長から後援・協賛について説明があり、審議の結果、案のとおり承認された。

②循環器病（脳卒中等）対策基本法案の成立を求める会の発起人について

出江副理事長から、日本脳卒中協会から「健康寿命の延伸等を図るための循環器病（脳卒中等）対策基本法案の成立を求める会」の発起人加盟の要請について、4月15日が回答期限であったことから業務執行理事会で加盟を決定し事後承認を得ることについて説明があり、了承された。なお、リハ医学会の担当は出水副理事長とした。

③平成28年度医学生、研修医等をサポートするための会の開催について

浅見理事から、日本医師会の「平成28年度医学生、研修医等をサポートするための会の開催について」依頼があったため、本年度も専門医学会学術集会の二日目に **RJN** で企画したい旨説明があり、了承された。なお、来年度以降は秋季学術集会で企画することが補足された。

#### IV 報告事項

(1) 各種委員会報告

平成28年3月5日から平成28年4月22日に開催された以下の委員会について、担当理事から報告があった。

①編集委員会 道免理事

平成27年度優秀論文賞に選定された木村彰男先生から、賞金の

10万円を医学会への寄付の意味を込めて、受け取りを辞退したい旨の申し出があったことが紹介された。

また、和文学会誌に関して出版会社の対応及び質について理事から意見が出され、編集委員会で検討することとした。

- |           |          |
|-----------|----------|
| ②評価・用語委員会 | 水間理事長（代） |
| ③教育委員会    | 正門理事     |
| ④施設認定委員会  | 椿原理事     |
| ⑤試験委員会    | 芳賀理事     |
| ⑥関連機器委員会  | 菅本理事     |
| ⑦国際委員会    | 佐浦理事     |

(2) 英文ジャーナルの進捗状況について

道免理事から、英文ジャーナルの刊行に向けて応募していた科学研究費補助金国際情報発信強化が単年度であるが採択されたため、初年度の掲載料は無料としていく旨報告があった。また、第1号の投稿があり審査が始まる旨の報告があった。

(3) GSK 医学教育事業助成について

水間理事長から、教育委員会に検討を依頼していた GSK 医学教育研究助成への申請について、時間をかけて教育委員会、関連専門職委員会で検討してもらう旨報告があった。

(4) 平成28年度 JARD 事業計画について

近藤理事から、JARD データベースから新たなデータベース構築について、今秋までにシステムを完成させて年明けに稼働させるための検討状況について報告があった。

(5) 専門医会報告

大串専門医会幹事長から専門医会各 SIG の活動について報告があった。また、第11回専門医会学術集会の準備状況について報告があった。

(6) RJN 報告

浅見理事から、インタビュー企画などについて報告があった。

(7) 2-f（2回目）、2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から 2-f（2回目）、2-g 項目による生涯教育研修単位の申請に対する審議結果について報告があった。

(8) 病態別実践リハ医学研修会について

正門理事から神経系障害研修会の講師変更について報告があった。

(9) 実習研修会について

正門理事から平成27年度実習研修会実施結果及び平成28年度の実施計画について報告があった。

(10) 1-f 審査基準の改訂について

正門理事から関連学会の認定申請（1-f）審査基準改定について説明があったが、委員会取り決めとして報告するのではなく、もともと内規と

されていたものの改訂なので審議とすべきという指摘があり、審議の結果、案の通り承認された。

(11) その他

①日本医学会総会アンケートについて

出水副理事長から、日本医学会総会アンケートについて、理事からの意見を参考に回答した旨の報告があった。

②ISPRM2016 への協賛金支出について

才藤副理事長から、ISPRM2016 に対して次のような説明があった。

ISPRM2016 へ 100 万円の協賛金支出はすでに認められているが、さらにマレーシアにおける合同企画実施のために 100 万円の追加支出を行うこと、53 回学術集会においてマレーシアからの招へい費用負担と行う。会計処理は、事務局において小見山顧問と相談する。

③28 年度交通事故医療研究助成募集について

出水副理事長から報告があった。

④公認心理士について

才藤副理事長から、公認心理士の試験委員にリハ医学会が関与する件について、厚労省と協議している状況であり、判明次第報告する旨説明があった。

⑤脳卒中ガイドライン論文引用の扱いについて

水間理事長から、脳卒中ガイドラインの英語論文引用の訂正に関するその後の状況について小林弁護士とも協議をしながら対応を進めているが、文科省の研究不正に関するガイドラインを参考に倫理委員会でリハ医学会におけるガイドラインの検討を行うよう諮問した旨説明があった。また、理事長名で本件関係先に謝罪文を出す予定である旨の補足があった。

⑥リハ医学ガイドの完成について

千田理事から席上配布資料に基づき、リハ医学ガイドが出版された旨報告があり、1 冊 100 円（消費税、送料別）として販売するので、購入をお願いしたい旨要請があった。

以上